Wakaba F.C.指導方針

●基本方針

1　競技としてのサッカーにおいては個人の能力を最大限に発揮できる環境を作る。

選手には持って生まれた才能に差があり一律でないことを前提とし、その中で最大限の個人能力向上を目指す。チームプレーを否定するものではないが、優先順位は『クラブの勝利』より『個人の成長』を大切にする。個人を他の選手と比較するのではなく、時間軸で成長を評価するようにする。

2　選手個人が小学校卒業までサッカーを続け、その後の礎になる準備を行う。

途中で辞めてしまうことは必ずしも悪いことではない。その選手にとってよりよい方法を選ぶべきではある。まして能力の著しく高い選手をこのクラブに留めようとすることは指導者の奢りであり、成長を喰い止めることになりかねない。また、他クラブへの移籍もその選手にとって有効であればWakaba　F.C.に拘ってはならない。しかし、多くの場合途中でクラブを辞めた選手は次のクラブや、別のスポーツでも長続きせず、その後の将来も『辞めグセ』がついているケースが多いことも指導者として理解しておきたい。また、中学生になっても恥ずかしくないU-12年代にやるべき最低限の技術を身につけて卒業させたい。

3　楽しさを優先した教育を行う。

苦しい練習、厳しい指導、叱って育てることはとても大切なものであり、どちらかというと褒めることよりも難しい指導である。しかし、比率としては楽しさを優先した指導とし、結果として選手が『厳しさも必要である』と感じることが理想とする。

4　長所を大きく育み、限りない可能性のある個性を尊重する指導を行う。

短所の矯正は大切でありいち早く他の選手に追いつけたく思う優しさは大切な感覚ではある。しかし、それが本当に短所なのか、強い個性なのかを見極める必要がある。短所の矯正は叱らずヒントを与え考えさせる。一方長所は決して『ケチ』をつけず、ドンドン伸ばしてやることが重要となる。全選手が平均的に成長することは不可能であり、ある一定の選手だけが更に上達することも受け入れるべきである。

5　フェアプレーの精神を徹底して身につけさせる指導を行う。

ルールを遵守し、不正なプレーは選手として成長しないことを理解させる。

6　地域活動、ボランティア精神の大切さを身につける。

家庭や学校生活と違う団体生活を通して地域の仲間に助けてもらって生活していることを理解させ、感謝のこころを育む。親、コーチ、グランドを貸してくださる方、対戦相手、審判その他多くの方に挨拶できる選手を育てる。